



民館に響く楽しそうな声。毎月第3日曜日になると『おうら青年学級（以下、青年学級）』の教室から聞こえてきます。

ここでは、20〜50代までの軽・中度の知的障がいがある男女9人の学級生たちが、自立した生活と余暇活動の充実を目指して活動しています。学級生たちは青年学級に来ると、生き生きと活動をしています。今月号ではその理由を探ります。

### 公民館は誰もが学べる場所

町では、全ての学習を保障しようという全体的な構想の下、各公民館などで講座を開いています。いつでもどこでも誰でも学べるのが公民館。その考えの中、生まれたのが「青年学級」でした。

### 発足から15年続く、青年学級

青年学級の発足は平成16年度のこと。障がいがある青年の余暇活動の場は、それまで公的に全くなかったそうです。「地域の作業所や施設に通う障がい者が休日を通り過ぎる場所、地域の人と関わる場所をつくりたいという思いが、青年学級の発足へスタッフたちを動かしました。また、障がい者の親の会や障がい者施設の施設長などに話を聞いて、居場所が必要ということを一

[Close Up]

自立した生活と余暇活動の充実を目指して

# 一人一人が輝く、おうら青年学級

広報おうら1月号で「おうら青年学級」が文部科学大臣表彰を受賞したことをお知らせしました。それは障がいがある青年のための「生涯学習」の場です。活動する青年たちは一人一人が生き生きと輝いています。その理由に迫ります。



●2月9日に行われた青年学級で学級生とボランティアスタッフが集合

## ここでは、学級生一人一人が「主役」

致しました」と話すのは発足当時の公民館館長だった永澤義弘さん。  
続けて「障がいのある青年たちが自立していくことは、親が亡き後も生きる力を身に付けることにつながります。少しでも充実した活動を行うために、準備する側も2年かけていろいろな分野のスタッフを集め、研修会などを行い、体制を整えてから、開講しました」と話します。

### 余暇の充実と自立を目指し

青年学級での活動は、皆さんが休日に行うようなレクリエーションや日常生活に必要な活動が中心です。レクリエーションでは、なかなか一人でやるには難しい、バス旅行や映画鑑賞、バーベキューなど。日常生活に必要な活動では、食事作りや買い物などを行っています。特に、食事作りは



①ボランティアスタッフと一緒に巻き寿司を作る学級生②バーベキューは火起こしから挑戦③買い物も自立に大切なプログラム④仲間との食事はより楽しい⑤ハンバーグ作りにチャレンジ、出来ることは自分たちで

生きていくうえで、自立するうえで大切なこと。積極的にプログラムに取り入れているそうです。これまで、パスタやカレー、パンなど、自分でも楽しめる料理作りに挑戦し、家族からも喜ばれているそうです。

### 体験から生まれたプログラムも取り入れ

学級生が実際に体験した事例を役立てようと、プログラムに取り入れた活動があります。

ある学級生は、持病を持つ母親と二人暮らしでした。その母親が自宅で倒れ、息子が救急車を呼ぶように頼みますが、慌ててしまい消防署に電話を掛けることができませんでした。なんとか母親が自ら電話を掛けることができ、事なきを得ましたが、その教訓から『緊急時の電話の掛け方』をプログラムに盛り込み、3年ほど実施してきました。

緊急時の電話の掛け方を学んだことで、学級生自らが公民館に電話をしてくれるようになったそうです。学級生にとってプログラムが生きた活動になっていくことが分かります。

ボランティアスタッフでもあり、前公民館館長の森戸栄一さんは「学級生たちにとって、ここでの活動は皆さんが友達とランチをしたり、スポーツを



通報の仕方の実践練習をする学級生。緊張しながら住所や電話番号などを伝えました

したりすることと同じ。そのため活動プログラムは、学級生たちの意見を聞き、できるだけ学級生が取り組みたいことをしています。だから、学級生一人一人が活動の主役。生き生きと輝いている理由もそこなのかもしれない」と話します。

問合せ 中央公民館 88-11177

### 青年学級は「生きる力」を培う場

障がい者の青年学級と出会ったのは私が大学生のとき。東京都町田市で行われていて、ボランティアとして参加していました。その時の経験を生かし「不利な立場の人こそ、学習権を公民館で保障する」の考えの下、青年学級の発足を提案し、実現しました。これからは地域社会の中で『生きる力』を学級生たちに培ってほしいです。

永澤義弘さん（横町化楽・3区）



# 一人一人の、輝きはこれから

## 令和元年度の活動を一部紹介

4月 開講式、年間プログラム決め

5月 中央公民館まつりで模擬店

6月 調理実習

7月 陶芸、軽スポーツ

8月 夏休み(休講)

9月 バス旅行(ぐんま昆虫の森)

10月 調理実習、さわやか音楽健康体操

11月 手芸、ボランティア清掃

12月 調理実習、クリスマス会

1月 買い物体験

2月 通報訓練、文集づくり

3月 調理実習、閉講式



**青** 年学級を取材した今回の特集。ボランティアスタッフは口をそろえ「学級生たちはとても成長し、その意欲には驚かされる」と話していました。取材で見えたのは、お互いがニックネームで呼び合えること、活動を学級生主体で決めていること、お互いの距離感が良い雰囲気をつくっていること。この一つ一つが学級生やボランティアスタッフ、そして青年学級のステップアップにつながっているのかもしれない。

## おうら青年学級の輝きは理想のカタチ

障がいの有無に関わらず、全ての人がお互いを大切に、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができるとを意味する「共生社会」。その理想のカタチのようなかたちが見え、青年学級の活動の中に見えた気がします。そのカタチの中で行う活動だからこそ、生き生きと輝くひとときがここに生まれているのかもしれない。

### 学級生募集

- ▶対象 町内在住で15~45歳くらいまでの軽・中度の知的障がい者 ※親子での面談あり。
- ▶定員 若干名
- ▶費用 各回500~700円程度(昼食代など)
- ▶申込締切 4月10日◎

### 共通事項

- ▶日時 毎月第3日曜日 午前10時~午後3時 ※8月を除く、年間11回開催予定。
- ▶会場 中央公民館など
- ▶内容 レクリエーション、バス旅行、調理実習、緊急通報訓練、ボランティア清掃など
- ▶申込方法 中央公民館に直接申し込む
- ▶申込・問合せ 中央公民館 ☎88-1177

### ボランティアスタッフ募集

- ▶対象 ボランティアスタッフとして、おうら青年学級に協力できる人



スタッフとして  
働きませんか!

### Family Voice 家族の声を聞く



稲村 和恵さん(水立大黒・23区)

●おうら青年学級に平成16年から通う、稲村真由美さんの母。町療育父母の会で代表を務める。「青年学級のバス旅行に参加し、真由美の生き生きとした姿に感動した」と語る

おうら青年学級に通い、娘が大きく成長

## ここでは、真由美ちゃんを一人の大人として見てくれるだから、輝いている

青年学級に通い始めた頃は、時間に間に合わなかったり気分が乗らなったりと、いろいろありました。「つらいなら辞めたら?」と聞いたこともありました。「絶対に辞めない」と本人の強い意志があり、16年続けています。

これからは青年学級を通して、真由美がさらに成長し、少しでも自立していけるようにと願っています。

**真** 由美にとって、青年学級は楽しい時間みたいです。毎月1回の活動をいつも楽しみにしているのが伝わってきます。

そうしていると「何か手伝えることある?」「洗濯やっておいたよ」ということが多いなりました。

### おうら青年学級の学級生たち

## 一人一人が、輝ける理由

学級生が輝く青年学級が続いてきたのは、学級生たちの両親の理解やボランティアスタッフの協力があってこそ。青年学級での学級生の様子やそこから感じることを、学級生の母親とボランティアスタッフに聞きました。

### Staff Voice スタッフの声を聞く

青年学級で活動する  
スタッフは13人  
その中の3人に聞く



坂本 かつ江さん(十三坊塚・6区)

ボランティアを続けて15年。学級生たちの成長には驚かされます。初めは、公民館に入るのも嫌がっていた子たちが、今は自分から行動できるように。そうした学級生一人一人の成長が私にとっての楽しみ。だからスタッフはやりがいがあります。



田村 裕昭さん(千代田町)

**長** 障がい者の相談支援に携わっていますが、知的障がい者の自立を目指し、毎月活動を行っている公民館事業はとても貴重な取り組みです。学級生が地域と関わり、豊かな生活を送れるようにこの取り組みが続いてくれるとうれしいです。



赤石 子子さん(石打・20区)

**娘** がこのボランティアをしていたので、自然と私も手伝うように。学級生たちの活動は、私が思っている以上にとても意欲的。今の活動が生き、学級生たちがサークルを立ち上げて公民館で活動していく、なんてのも良いのかもしれない。